
日本の手織機 便り

2007年3月

第10号 (最終号)



2004年3月にこの「日本の手織機便り」第1号を発行してから、3年がたちました。

筆者は3月末を以って東京農工大学工学部附属繊維博物館を定年退職します。ご紹介が遅れていました鳥取県の弓浜緋の情報を掲載し、この号をもって最終号といたします。

「日本の手織機便り」でご紹介できた手織機は60点ある重松氏の模型のごく1部ではございますが、多くの皆様のご協力により日本の伝統技術を伝承するためにいくらかは貢献できたかと存じます。

第9号に掲載しました三河織物工業協同組合からは、平成19年1月24日付けで地域団

体商標『三河木綿』が登録査定を受けた旨、ご報告をいただきました。各地の伝統工芸の関係者の皆様のご努力により、日本の伝統技術の未来が開けることを祈っております。

私の退職後も、ご上京の折はぜひ繊維博物館にお立ち寄り下さい。重松氏の模型や資料は分かりやすく整理して保存してありますので、関係者に声をかけていただければ、お目にかけることが可能です。皆様本当にありがとうございました。

東京農工大学工学部附属繊維博物館
田中 鶴代

手織機情報紹介

弓浜緋高機 鳥取県鳥取市 鳥取県立博物館所蔵

鳥取県西部の米子市から境港市にかけて幅約4km、長さ約20kmの白砂青松の陸橋「弓ヶ浜」が弓浜緋の名前の由来。明治20年ごろ、先進地・久留米から高機を導入したといわれる。「吊り笥」の支柱がほぼ直立しているのが、弓浜緋高機の特徴。昭和50年9月、国の伝統的工芸品に指定される。

—鳥取県商工労働部 産業開発課 門脇 互氏より



日本の手織機便り 第10号

発行 東京都小金井市中町 2-24-16 東京農工大学工学部附属
繊維博物館 田中鶴代

発行日 平成19年3月6日

繊維博物館URL : <http://www.tuat.ac.jp/~museum>

カットは勝川春潮：蚕織七種業（繊維博物館所蔵）

